



習志野受験研究所

石川県公立高校入試【社会・歴史】完全攻略プリント③

～15年間（2012～2026年）の出題データから導く「年代整序・時期判定の
3段階仕分けトレーニング」～

【本教材のガイダンスと到達目標】

対象者

石川県公立高校入試を受験する中学3年生（および指導者・保護者）

特に向いている生徒

- ・ 「年号を丸暗記していないから並べ替え問題が解けない」と諦めてしまっている生徒
- ・ カード4枚の年代整序問題で、細かい西暦年号の記憶違いから失点してしまう生徒
- ・ 年表中の「～から～の間」に起きた出来事を選ぶ問題で、時期の判定に迷って時間がかかる生徒
- ・ 石川県公立高校入試の大問5（歴史）において、整序・時期判定問題で確実に得点したい生徒

このプリントでできるようになること

- ・ **条件・設問要求の確認（Step 1）**：設問が求める基準（古い順の並べ替えか、期間内の選択か、特定の出来事より前／後か）を線で囲んで明確に把握できる。
- ・ **歴史事実・キーワードの抽出（Step 2）**：各選択肢やカードの文章から、時代を決定づける固有名詞（制度名、条約名、事件名、人物名など）を素早く抽出できる（3段階仕分けの第1段階）。
- ・ **根拠と正答条件の照合（Step 3）**：4桁年号を思い出す前に、まず「大時代区分（明治前期・明治後期・大正・昭和戦前・昭和戦後以降）」に仕分け、同じ時代に重なったものだけ因果関係や重要年号で前後を判定できる（3段階仕分けの第2・第3段階）。
- ・ **答案の作成・記号の決定（Step 4）**：符号の並び順（「C → A → D → B」など）や指定された選択数（「2つ選べ」など）の条件を満たして確実に解答できる。

推奨する使い方

1. **第1章・第2章の通読**：石川県入試における年代整序・時期判定の出題構造と、「4ステップ確認手順」および「3段階仕分け手順」の対応関係を把握する。
2. **第3章 第1部の演習（問1～8）**：ステップ分解枠を活用して演習を行う。ヒントが徐々に減る設計（手順例示 → 半誘導 → 自力整理）により、年号に頼らず時代ブロックと因果関係・前後関係で解く感覚を定着させる（目安時間：30分）。
3. **第3章 第2部の演習（問9～12）**：パターン名やステップ枠のない実戦形式で、自力で3段階仕分けを回して解答する（目安時間：20分）。
4. **第4章による自己採点**：「本教材の自己採点目安」を参照し、正誤と判定理由を客観的に確認する。
5. **第5章・第6章の活用**：試験直前の基準年（アンカー）確認と、実際の過去問演習への接続を行う。

【冒頭要約：15 年分析が導いた結論】

年代整序・時期判定は「4 桁年号の丸暗記」で解くものではない。まず「大時代区分の箱」に仕分け、同じ時代に入った項目だけを「歴史的因果関係や重要年号」で前後判定する 2 段階の処理が求められている。

2012～2026 年度の 15 年間（大問 5・全 98 設問）の分析から確認できる事実は以下の通り。

- **毎年のように問われる出題頻度**: 広義の「年代・時期の判定（カード整序、期間合致、排除など）」に該当する設問は、15 年間で 18 問（全体の 18.4%）確認され、15 年度すべての試験で出題されている。
- **大時代区分による決定性**: 4 枚カードの整序問題などでは、各カードが異なる大時代区分（明治前期・明治後期・大正・昭和戦後など）に分かれて配置されている例があり、個別の年号を知らなくても大時代区分の仕分けだけで正答が確定する。
- **同一時代内での前後判定**: 同じ時代（昭和戦前の約 10 年間など）に出来事が集中している場合は、単なる年号暗記ではなく「原因となった出来事（開戦契機など）→ 結果として生じた出来事（条約・法制化など）」という因果の矢印や主要な推移を追跡して判定する。

★ 最初から年号を思い出そうとするな。必ず「時代ブロックの仕分け」から着手し、必要な場合のみ「因果関係や重要年号」で前後を詰めよ。

第 1 章：15 年間の出題データに見る「年代整序・時期判定」の実態

石川県公立高校入試の大問 5（主に近現代史を扱う大問）において出題された年代整序・時期判定の実例から、代表的な 2 つの構造を確認する。

実例(1)：大時代区分で配列が一意に決まる構造（2022 年度 問 5）

- **問題の概要**: 近現代の経済・社会に関する 4 枚のカード（A：財閥解体などの経済民主化、B：大戦景気、C：地券発行と地価の決定、D：日清戦争前後の紡績業・製糸業の発展）を古い順に並べ替える問題。
- **解法の筋道**:
 1. カード C：地租改正 ⇒ **明治前期**（1870 年代）
 2. カード D：産業革命 ⇒ **明治後期**（1890 年代）
 3. カード B：大戦景気 ⇒ **大正時代**（1910 年代後半）
 4. カード A：財閥解体 ⇒ **昭和戦後**（1940 年代後半）
- **分析の視点**: 4 枚のカードがすべて異なる時代ブロックに属しているため、個別の 4 桁西暦年号を一切計算することなく、「明治前期（C）→ 明治後期（D）→ 大正（B）→ 昭和戦後（A）」という大区分の推移だけで正答が導ける。

実例(2)：指定期間の境界と因果関係を照合する構造（2018 年度 問 2）

- **問題の概要**: 年表中の「1894 年（日清戦争の始まり）から 1904 年（日露戦争の始まり）の間」に中国で起こった出来事として適切なものを 1 つ選ぶ問題（選択肢：ア. 甲午農民戦争、イ. 辛亥革命、ウ. 義和団事件、エ. 五・四運動）。
- **解法の筋道**:
 1. 甲午農民戦争（1894 年）は日清戦争の「直接の契機（開戦前）」であるため除外。

2. 辛亥革命（1911 年）および五・四運動（1919 年）は、日露戦争よりも明確に後の出来事であるため除外。
 3. 義和団事件（1900 年）は、事件後にロシアが満州に軍を駐留させ続けたことが日露対立を深めたという因果関係から、両戦争の中間に位置すると特定できる。
- **分析の視点:** 近接した年代であっても、「戦争の契機（前）」「戦争の結果」「次の対立への要因（中間）」という歴史の因果連鎖を把握していれば、迷わずに正答（ウ）を導くことができる。

第 2 章：攻略する「4 ステップ確認手順」と「3 段階仕分け手順」

年代整序・時期判定問題を解く際は、全体手順としての「4 ステップ確認手順」を土台とし、その中心処理として「3 段階仕分け手順」を実行する。

【全体の骨格：4 ステップ確認手順】

- **Step 1：条件・設問要求の確認:** 古い順の並べ替えか、期間内の選択か、特定時期より前／後かを線で囲み、要求されている解答形式（符号、記号数）を確定する。
- **Step 2：歴史事実・キーワード抽出:** 各カードや選択肢の文章を漫然と読まず、時代を特定する中心キーワード（事件、制度、条約、人物など）を余白に抜き出す（＝3 段階仕分けの第 1 段階）。
- **Step 3：根拠と正答条件の照合:** 抽出したキーワードをもとに時代ブロックへ振り分け、必要に応じて前後を判定する（＝3 段階仕分けの第 2・第 3 段階）。
- **Step 4：答案の作成・記号の決定:** 符号の並び順（左から右へ）や、マークする記号に誤りがないかを確認して解答欄を埋める。

【年代判定に特化した「3 段階仕分け手順」】

- **第 1 段階（キーワード抽出）:** 各項目から時代を決定づける固有名詞を 1 つ特定する（Step 2 に対応）。
- **第 2 段階（時代ブロック仕分け）:** 5 つの大時代区分の箱に各項目を振り分ける（Step 3 に対応）。
 - 【箱 1】明治前期（1868～1880 年代半ば：維新、地租改正、殖産興業、自由民権）
 - 【箱 2】明治後期（1880 年代後半～1912 年：憲法、条約改正、日清・日露、八幡製鉄所）
 - 【箱 3】大正時代（1912～1926 年：第一次大戦、大戦景気、米騒動、普選法・治安維持法）
 - 【箱 4】昭和戦前（1926～1945 年：恐慌、満州事変、日中戦争、国家総動員法、太平洋戦争）
 - 【箱 5】昭和戦後以降（1945 年以降：占領改革、朝鮮特需、平和条約、高度成長、冷戦終結）
- **第 3 段階（同一ブロック内の前後判定）:** 同じ箱に複数の項目が入った場合のみ、因果関係（原因 → 結果、開戦 ⇄ 講和など）や重要年号を手掛かりに順序を確定する（Step 3 に対応）。

【出題される 3 大出題パターン】

パターン	出題形式の特徴	求められる判断処理	代表的な過去問例
パターン A 【大時代ブロック 仕分け型】	カード 4 枚の年代整序	各項目を 5 つの大時代区分に振り 分けるだけで順序が決まる。	2022 年間 5 (経済カード) 2017 年間 5 (女性史カード)
パターン B 【期間指定・挟み 撃ち型】	年表中の「～から～の 間」を選択	始点と終点の基準年(アンカー)を 確認し、枠外の時代を排除する。	2026 年間 6 (1951～1992 年) 2018 年間 2 (1894～1904 年) 2023 年間 4 (1919～1939 年)
パターン C 【同一時代内の前 後判定型】	特定の出来事より「前／ 後」を選択、または短期 間の整序	大区分が同じ選択肢の中から、開戦 契機や政策の因果関係、重要年号で 前後を決める。	2014 年間 5 (連盟脱退の前)

第 3 章：実戦定着ドリル（全 12 問）

※本章の問題は、入試の出題形式を再現するために作成した演習用のオリジナル問題である。

第 1 部：パターン別ステップ分解演習（全 8 問）

【パターン A：大時代ブロック仕分け型（4 枚カード整序）】

【問 1：近現代の政治・社会制度カードの整序】

次のカード A～D は、近代から現代にかけての日本の政治や社会制度の動きについて書かれたものである。年代の古いものから順に並べ、その符号を書け。

- カード A: 敗戦後の占領下において、地主の小作地を政府が買い上げて小作人に売り渡す農地改革が実施された。
- カード B: 日露戦争の講和条約であるポーツマス条約が結ばれ、ロシアから南樺太などを譲り受けた。
- カード C: 明治政府の財政基盤を固めるため、土地の所有者に地券を交付し、地価の 3% を現金で納めさせる地租改正が実施された。
- カード D: 護憲運動や民衆運動の高まりを背景に、納税額による制限を撤廃した普通選挙法が制定された。

【ステップ分解枠（手順例示）】

- Step 1（条件・要求の確認）：カード A～D を [古い順] に並べ替えて符号で答える。

【問4：戦間期（1919～1939年）の国際情勢の判定】

年表中の「1919年（ベルサイユ条約調印）から1939年（第二次世界大戦勃発）までの間」に起こった出来事として適切なものを、次のア～エから二つ選べ。

- ア．アメリカのサンフランシスコで対日平和条約が調印され、その翌年の条約発効によって日本が主権を回復した。
- イ．ニューヨークの株式市場で株価が暴落し、世界恐慌が始まった。
- ウ．下関条約によって、日本が清から台湾や遼東半島を譲り受けた。
- エ．リットン調査団の報告書採択に反発し、日本が国際連盟からの脱退を通告した。

【ステップ分解枠（半誘導）】

- Step 1（条件・要求の確認）：[1919年] から [1939年] の間の出来事を [2つ] 選ぶ。
- Step 2（キーワード抽出と時代確認：第1段階）：
 - ア（サンフランシスコ平和条約）：時代区分は？ ⇒ [昭和戦後以降]（1951年調印・52年発効）
 - イ（世界恐慌）：時代区分は？ ⇒ [昭和戦前]（1929年）
 - ウ（下関条約）：時代区分は？ ⇒ [明治後期]（1895年）
 - エ（国際連盟脱退）：時代区分は？ ⇒ [昭和戦前]（1933年）
- Step 3（根拠と正答条件の照合：第2・第3段階）：
 - 指定された期間より前の時代や、第二次世界大戦後の出来事を排除し、第一次大戦後から第二次大戦勃発までの期間（戦間期）に当てはまる出来事を特定する。
- Step 4（答案作成）：

答： [], []

誤答原因チェック：[] 選択数（2つ）の見落とし [] サンフランシスコ平和条約の時期誤認
[] その他（ ）

【問5：基準年より「前」の出来事の選別】

1914年の「第一次世界大戦の勃発」より前に起こった出来事として最も適切なものを、次のア～エから一つ選べ。

- ア．米価の急騰に対して富山県の漁村から起こった米騒動が全国に広がった。
- イ．日露戦争の講和条約であるポーツマス条約がアメリカの仲介で調印された。
- ウ．加藤高明内閣によって納税要件を撤廃した普通選挙法が制定された。
- エ．ニューヨークでの株価暴落を契機に、世界恐慌が発生した。

【ステップ分解枠（半誘導）】

- Step 1（条件・要求の確認）：[1914年（第一次世界大戦）] より [前] の出来事を1つ選ぶ。
- Step 2（キーワード抽出と時代確認：第1段階）：
 - ア（米騒動）：第一次大戦中か後か？ ⇒ [大戦末期・1918年]
 - イ（ポーツマス条約）：日露戦争終結は？ ⇒ [明治後期・1905年]
 - ウ（普通選挙法）：大正デモクラシー期は？ ⇒ [大正末期・1925年]
 - エ（世界恐慌）：昭和初期の恐慌は？ ⇒ [昭和戦前・1929年]

【問7：明治前期の近代国家建設と内乱の推移】

次の1～4は、明治時代前期における諸改革と社会の動きについて述べたものである。年代の古いものから順に並べ、その番号を書け。

1. 全国を一律に政府の直轄地とするため、藩を廃止して県を置く廃藩置県が断行された。
2. 国民皆兵の原則に基づき、満20歳になった男子を徴兵検査の対象とする徴兵令が公布された。
3. 西郷隆盛を中心とする士族が政府に対して反乱を起こし、最大の内乱である西南戦争が勃発した。
4. 板垣退助らが政府に対して民撰議院設立建白書を提出し、自由民権運動が始まった。

【ステップ分解枠（自力整理枠）】

- Step 1（条件・要求の確認）：1～4の出来事を「古い順」に並べ替えて番号で答える。
- Step 2（キーワード抽出：第1段階）：
 - 1：「廃藩置県」
 - 2：「徴兵令」
 - 3：「西南戦争」
 - 4：「民撰議院設立建白書」
- Step 3（根拠と正答条件の照合：第2・第3段階）：
 - 第2段階（時代ブロック仕分け）：すべて「明治前期（1870年代）」に属する。
 - 第3段階（同一ブロック内の前後判定）：
 - 中央集権化や近代化政策の断行と、それに伴う士族・民衆の反発や政治運動の推移を整理して並べる。
 - 「出来事の整理欄」：_____
- Step 4（答案作成）：

答：「 」⇒「 」⇒「 」⇒「 」

誤答原因：「」廃藩置県と徴兵令の順序逆転「」西南戦争の時期の誤認「」その他（ ）

【問8：戦後日本の民主化と国際社会復帰の推移】

次の1～4は、第二次世界大戦後の日本の歩みについて述べたものである。年代の古いものから順に並べ、その番号を書け。

1. 主権在民、平和主義、基本的人権の尊重を基本原理とする日本国憲法が公布された。
2. アメリカを中心とする48カ国との間でサンフランシスコ平和条約が調印され、日本の主権回復が決まった。
3. 朝鮮戦争の勃発に伴い、アメリカ軍などが日本の企業に軍需物資の生産や修理などを発注し、特需景気が起こった。
4. 日ソ共同宣言によってソ連との戦争状態が終了して国交が回復し、日本の国際連合加盟が実現した。

【ステップ分解枠（自力整理枠）】

- Step 1（条件・要求の確認）：1～4 の出来事を [古い順] に並べ替えて番号で答える。
- Step 2（キーワード抽出：第 1 段階）：
 - 1：[日本国憲法公布]
 - 2：[サンフランシスコ平和条約調印]
 - 3：[朝鮮特需]
 - 4：[日ソ共同宣言・国連加盟]
- Step 3（根拠と正答条件の照合：第 2・第 3 段階）：
 - 第 2 段階（時代ブロック仕分け）：すべて [昭和戦後（1945 年～1950 年代）] に属する。
 - 第 3 段階（同一ブロック内の前後判定）：
 - 占領下の民主化改革から冷戦の影響、そして主権回復・国際社会への復帰に至る推移を整理して並べる。
 - [出来事の整理欄]：_____
- Step 4（答案作成）：

答: [] ⇒ [] ⇒ [] ⇒ []

誤答原因: [] 朝鮮戦争と平和条約の順序逆転 [] 国連加盟の時期誤認 [] その他()

第 2 部：実戦演習（全 4 問）

ヒントやステップ枠は用意されていない。余白を使って自力でキーワードを抽出し、時代ブロックを判定して解答せよ。

【問 9】

次のカード A～D は、近代から現代にかけての日本の外交や同盟関係について書かれたものである。年代の古いものから順に並べ、その符号を書け。

- カード A: ロシアの極東進出に対抗するため、日本とイギリスとの間で日英同盟が結ばれた。
- カード B: ヨーロッパで第二次世界大戦が激化する中、日本・ドイツ・イタリアの間で日独伊三国同盟が結ばれた。
- カード C: 第一次世界大戦後の軍縮会議において、四カ国条約の締結に伴い日英同盟が解消された。
- カード D: 岸信介内閣のもとで日米安全保障条約の改定調印が行われ、激しい反対運動(安保闘争)が起こった。
- 答: [] ⇒ [] ⇒ [] ⇒ []

誤答原因: [] 日英同盟締結と解消の順序ミス [] 三国同盟と安保改定の時代誤認
[] その他()

【問 10】

年表中の「1951 年（サンフランシスコ平和条約調印）から 1973 年（第 1 次石油危機）までの間」に起こった出来事として適切なものを、次のア～エから二つ選べ。

- ア. 関東軍が柳条湖で南満州鉄道の線路を爆破し、満州事変が始まった。
- イ. 日ソ共同宣言によってソ連との国交が回復し、日本の国際連合加盟が認められた。
- ウ. 沖縄の施政権がアメリカから日本へ返還され、沖縄県が復活した。
- エ. 東西冷戦の象徴であったベルリンの壁が崩壊し、東欧の民主化が進んだ。
- 答: [], []

誤答原因: ☐ 選択数 (2 つ) の見落とし ☐ 沖縄返還 (1972 年) の時期誤認
☐ その他 ()

【問 11】

1925 年の「普通選挙法の制定」より前に起こった出来事として最も適切なものを、次のア～エから一つ選べ。

- ア. 海軍の青年将校らが首相官邸を襲撃し、犬養毅首相が暗殺された（五・一五事件）。
- イ. ヨーロッパでサラエボ事件を契機に第一次世界大戦が勃発した。
- ウ. ニューヨークの株式市場での株価暴落を契機に世界恐慌が発生した。
- エ. 北京郊外の盧溝橋での武力衝突を契機に日中戦争が勃発した。
- 答: []

誤答原因: ☐ 第一次大戦の時期誤認 ☐ 五・一五事件の時代誤認 ☐ その他()

【問 12】

次の1～4は、明治時代における対外関係の動きについて述べたものである。年代の古いものから順に並べ、その番号を書け。

1. ロシアとの軍事衝突である日露戦争が終結し、アメリカの仲介でポーツマス条約が結ばれた。
2. 朝鮮で甲午農民戦争が起こったことを契機に日清戦争が始まり、翌年下関条約が結ばれた。
3. 日本は韓国の外交権を奪い、統監府を設置して支配を強めた後、1910 年に韓国を併合した。
4. 下関条約で日本が獲得した遼東半島について、ロシア・フランス・ドイツが清への返還を勧告した（三国干渉）。

- 答: $[] \Rightarrow [] \Rightarrow [] \Rightarrow []$

誤答原因: ☐ 下関条約と三国干渉の順序逆転 ☐ ポーツマス条約と韓国併合の順序逆転
☐ その他 ()

第4章：解答と解説・解法手順の分析（自己採点用）

第1部：パターン別ステップ分解演習

【問1：近現代の政治・社会制度カードの整序】

- 正答: C ⇒ B ⇒ D ⇒ A
- 解説:
 - C：地租改正（1873年）⇒ 明治前期
 - B：ポーツマス条約（1905年）⇒ 明治後期
 - D：普通選挙法（1925年）⇒ 大正時代
 - A：農地改革（1946年～）⇒ 昭和戦後以降

4つの出来事がすべて異なる大時代区分に属しているため、大時代区分の推移（明治前期 → 明治後期 → 大正 → 昭和戦後）だけで一意に決定できる。

- 自己採点目安: 4つの符号の順序が完全に一致している場合のみ正解とする。

【問2：近代・現代の女性の歩みに関するカード整序】

- 正答: C ⇒ B ⇒ D ⇒ A
- 解説:
 - C：富岡製糸場の伝習工女（1872年操業開始）⇒ 明治前期
 - B：青鞥社結成（1911年）⇒ 明治末期（※大正の前年）
 - D：新婦人協会設立（1920年）⇒ 大正時代
 - A：女性参政権の行使（1945年選挙法改正・1946年総選挙）⇒ 昭和戦後以降

女性参政権は1945年12月の衆議院議員選挙法改正で認められ、翌1946年4月の総選挙で初めて行使された（日本国憲法の公布は1946年11月）。平塚らいてうの青鞥社結成（1911年）は明治末期であり、大正期（1920年）の新婦人協会よりも前である点を確認する。

- 自己採点目安: 4つの符号の順序が完全に一致している場合のみ正解とする。

【問3：日清・日露戦争の間の出来事の特定】

- 正答: ウ
- 解説:
 - ア：甲午農民戦争（1894年）は、日清戦争の直接の開戦契機であり、日清戦争より前（直前）であるため除外。
 - イ：辛亥革命（1911年）は日露戦争より後。
 - ウ：義和団事件（1900年）は日清戦争（1894～95年）と日露戦争（1904～05年）の中間に位置する。事件後にロシアが満州に駐留したことが日露対立の原因となった。
 - エ：五・四運動（1919年）は第一次世界大戦後であり大幅に後。
- 自己採点目安: 記号「ウ」が正しく選ばれている場合のみ正解とする。

【問4：戦間期（1919～1939年）の国際情勢の判定】

- 正答: イ, エ（順不同）
- 解説:
 - ア：サンフランシスコ平和条約（1951年調印・翌52年発効）は第二次世界大戦後（1945年以降）。
 - イ：世界恐慌（1929年）は第一次大戦と第二次大戦の間の出来事（枠内）。
 - ウ：下関条約（1895年）は日清戦争の講和条約であり明治時代。
 - エ：国際連盟脱退（1933年）は昭和戦前期の戦間期の出来事（枠内）。
- 自己採点目安: 「イ」と「エ」の両方が選ばれている場合のみ正解とする（部分点なし）。

【問5：基準年より「前」の出来事の選別】

- 正答: イ
- 解説:
 - ア：米騒動（1918年）は第一次大戦中。
 - イ：ポーツマス条約（1905年）は日露戦争終結時であり、第一次世界大戦（1914年）より前。
 - ウ：普通選挙法（1925年）は大戦後。
 - エ：世界恐慌（1929年）は大戦後。

基準年である1914年（第一次大戦勃発）以前の明治期の出来事はイのみである。

- 自己採点目安: 記号「イ」が正しく選ばれている場合のみ正解とする。

【問6：昭和戦前における対外侵略と統制のプロセス】

- 正答: 2 ⇒ 4 ⇒ 1 ⇒ 3
- 解説:

すべて昭和戦前の出来事であるため、因果関係と前後の推移で順序を決定する。

- 2：満州事変（1931年）で中国東北部を占領。
- 4：国際連盟の勧告（リットン調査団報告書）に反発し、国際連盟脱退（1933年）。
- 1：盧溝橋事件を契機に日中戦争（1937年）が勃発。
- 3：戦争の長期化に伴い、物資・人員を統制する国家総動員法（1938年）を制定。
- 自己採点目安: 4つの番号の順序が完全に一致している場合のみ正解とする。

【問7：明治前期の近代国家建設と内乱の推移】

- 正答: 1 ⇒ 2 ⇒ 4 ⇒ 3
- 解説:

すべて明治前期（1870年代）の出来事である。

- 1：廃藩置県（1871年）で中央集権体制を確立。
- 2：三大改革の一環として徴兵令（1873年）を公布。
- 4：征韓論で下野した板垣退助らが民権議院設立建白書（1874年）を提出し、自由民権運動が始まる。
- 3：不平士族の反乱の頂点として西郷隆盛らが西南戦争（1877年）を起こす。
- 自己採点目安: 4つの番号の順序が完全に一致している場合のみ正解とする。

【問 8：戦後日本の民主化と国際社会復帰の推移】

- 正答: 1 ⇒ 3 ⇒ 2 ⇒ 4
- 解説:

すべて昭和戦後（1945 年～1950 年代）の推移である。

- 1：占領下における改革として日本国憲法公布（1946 年）。
 - 3：冷戦の激化により朝鮮戦争（1950 年）が勃発し、特需が発生。
 - 2：冷戦の進展を背景に、1951 年にサンフランシスコ平和条約へ調印し、1952 年の条約発効によって日本は主権を回復した。
 - 4：鳩山一郎内閣による日ソ共同宣言調印と国際連合加盟（1956 年）。
- 自己採点目安: 4 つの番号の順序が完全に一致している場合のみ正解とする。

第 2 部：実戦演習

【問 9】

- 正答: A ⇒ C ⇒ B ⇒ D
- 解説:
 - A：日英同盟締結（1902 年）⇒ **明治後期**（ロシアの満州進出に対抗）
 - C：四カ国条約調印（1921 年）により日英同盟の終了が決まり、1923 年に失効 ⇒ **大正時代**（国際協調期）
 - B：日独伊三国同盟（1940 年）⇒ **昭和戦前**（第二次世界大戦期）
 - D：安保改定調印（1960 年）⇒ **昭和戦後以降**（高度経済成長期）

日英同盟の締結（A）と解消（C）の前後関係、および各大時代区分の推移から特定できる。

- 自己採点目安: 4 つの符号の順序が完全に一致している場合のみ正解とする。

【問 10】

- 正答: イ，ウ（順不同）
 - 解説:
 - ア：満州事変（1931 年）は 1951 年より前。
 - イ：国連加盟（1956 年）は 1951～1973 年の枠内。
 - ウ：沖縄返還（1972 年）は 1951～1973 年の枠内。
 - エ：ベルリンの壁崩壊（1989 年）は 1973 年より後。
- 自己採点目安: 「イ」と「ウ」の両方が選ばれている場合のみ正解とする（部分点なし）。

【問 11】

- 正答: イ
 - 解説:
 - ア：五・一五事件（1932 年）は昭和戦前期。
 - イ：第一次世界大戦勃発（1914 年）は大正初期であり、普通選挙法（1925 年）より前。
 - ウ：世界恐慌（1929 年）は昭和戦前期。
 - エ：日中戦争勃発（1937 年）は昭和戦前期。
- 自己採点目安: 記号「イ」が正しく選ばれている場合のみ正解とする。

【問 12】

- 正答: 2 ⇒ 4 ⇒ 1 ⇒ 3
- 解説:

すべて明治後期の対外関係の推移である。

- 2：日清戦争と下関条約（1894～1895 年）。
 - 4：割譲された遼東半島をめぐる三国干渉（1895 年）。
 - 1：ロシアとの軍事対決である日露戦争とポーツマス条約（1904～1905 年）。
 - 3：日本は韓国外交権を奪い、統監府を設置して支配を強めた後、1910 年に韓国を併合した。
- 自己採点目安: 4 つの番号の順序が完全に一致している場合のみ正解とする。

第 5 章：試験直前チェックシート（持ち歩き用要約シート）

1. 時代の境界線と基準年（アンカー）一覧

- 時代の境界線:
 - 1868 年: 明治時代の始まり（明治維新・五箇条の御誓文）
 - 1912 年: 大正時代の始まり
 - 1926 年: 昭和時代の始まり
 - 1945 年: 第二次世界大戦終戦（昭和戦後以降へ）
- 学習上の基準点（重要アンカー）:
 - 1894 年: 日清戦争の開始（明治期の出来事の前後を整理する重要な基準点）
 - 1904 年: 日露戦争の開始（明治後期の国際対立の山場）
 - 1914 年: 第一次世界大戦の開始（大正期の国際秩序・大戦景気の起点）
 - 1925 年: 普通選挙法・治安維持法の成立（大正デモクラシーの到達点）
 - 1931 年: 満州事変の開始（昭和戦前の戦争拡大期を整理する基準点）
 - 1951 年: サンフランシスコ平和条約調印（講和条約調印の基準年）

2. 試験直前 1 分・年代判定チェックリスト

- ☐ 大時代区分に仕分けたか?: 明治前期・後期・大正・昭和戦前・戦後以降のどこに入るか、まず箱を決めたか?
- ☐ 同一時代の出来事は因果関係・前後関係を追ったか?: 「原因（開戦など） → 結果（条約など）」の矢印をメモしたか?
- ☐ 年表の条件を見落としていないか?: 「～から～の間」の始点と終点の年号を確認したか?
- ☐ 指定された記号の数を満たしているか?: 「二つ選べ」「すべて選べ」などの条件に印をつけたか?

第6章：過去問演習 組み合わせ優先度表（年代・時期特化）

※優先度は「出題予想」ではなく、本教材で扱った「大時代区分仕分け」と「前後判定」の手順を実際の入試問題で効率よく復習できるかという学習上の観点から設定している。

小問別・過去問演習優先度表

優先度	年度・設問	主目的・テーマ	形式・素材	練習したい処理内容
S	2022 年 問 5	経済・社会史の 整序	カード 4 枚整序	【パターン A】 地租改正・産業革命・大戦景気・財閥解体を大時代区分で仕分ける。
S	2026 年 問 6	戦後期間内の 事象判定	年表（1951 ～ 1992 年）	【パターン B】 明治期の選択肢を即座に排除し、戦後の枠内事象を 3 つ特定する。
S	2018 年 問 2	日清～日露の 間の事象	年表（1894 ～ 1904 年）	【パターン B】 開戦契機（甲午）を排除し、両戦争の中間に位置する義和団事件を特定する。
S	2014 年 問 5	連盟脱退より 前の事象	単一選択（基準 年判定）	【パターン C】 昭和戦前の侵略・政治プロセスから、連盟脱退の原因となった満州事変を特定する。
A	2017 年 問 5	近代女性史の 整序	カード 4 枚整序	【パターン A】 富岡製糸場から青鞥社（明治末期）、戦時、戦後への推移を仕分ける。
A	2023 年 問 4	戦間期の事象 判定	年表（1919 ～ 1939 年）	【パターン B】 第一次大戦後から第二次大戦勃発までの期間に当てはまる出来事を 2 つ選ぶ。

50 分授業での効果的な演習セット（最小セット：4 題）

- 演習時間配分:

- 自力解答（生徒演習）：20 分（1 題あたり約 5 分）
- 解説・手順確認：20 分（大時代ブロック仕分けと前後判定の手順確認）
- 振り返り・解き直し：10 分（誤答原因チェックと基準年の確認）

- 推奨演習セット:

1. **2022 年 問 5（大時代区分）**：4 枚のカードを「明治前期・後期・大正・昭和戦後」に振り分けて即答させる。
2. **2026 年 問 6（期間指定・枠外排除）**：始点（1951）と終点（1992）を確認させ、明治期のダミー選択肢を即座に排除させる。
3. **2018 年 問 2（戦争間の挟み撃ち）**：甲午農民戦争（前）と義和団事件（中間）を因果関係から区別させる。
4. **2014 年 問 5（同一時代内の因果）**：満州事変 → 連盟脱退 → 日中戦争 → 国家総動員法の一連の流れを確認させる。

【付録：全 12 問 自己採点・復習チェックシート】

演習後の自己採点結果を記録し、弱点の把握と解き直しに活用せよ。判定は「○（正解）／×（不正解）」で記録する。

（次ページを参照）

問番	設問の論理類型	判定	主な失点原因（該当するものにチェック）	解き直し完了
問 1	パターン A（大時代区分）	○ / ×	☐ 明治前期と後期の混同 ☐ 大正と戦後の順序逆転	☐
問 2	パターン A（大時代区分）	○ / ×	☐ 『青鞥』創刊の時代誤認 ☐ 富岡製糸場の時期誤認	☐
問 3	パターン B（期間指定）	○ / ×	☐ 甲午農民戦争の時期誤認 ☐ 辛亥革命の時期誤認	☐
問 4	パターン B（期間指定）	○ / ×	☐ 選択数（2 つ）の見落とし ☐ サンフランシスコ条約の時期誤認	☐
問 5	パターン B（基準年指定）	○ / ×	☐ 米騒動の時期誤認 ☐ 「前」「後」の読み違い	☐
問 6	パターン C（同一時代の前後判定）	○ / ×	☐ 満州事変と日中戦争の順序逆転 ☐ 連盟脱退契機の誤認	☐
問 7	パターン C（同一時代の前後判定）	○ / ×	☐ 廃藩置県と徴兵令の順序逆転 ☐ 西南戦争の時期誤認	☐
問 8	パターン C（同一時代の前後判定）	○ / ×	☐ 朝鮮戦争と平和条約の順序逆転 ☐ 国連加盟の時期誤認	☐
問 9	実戦（カード 4 枚整序）	○ / ×	☐ 日英同盟締結と解消の順序ミス ☐ 三国同盟と安保改定の時代誤認	☐
問 10	実戦（期間指定・2 つ選択）	○ / ×	☐ 選択数（2 つ）の見落とし ☐ 沖縄返還（1972 年）の時期誤認	☐
問 11	実戦（基準年指定・単一選択）	○ / ×	☐ 第一次大戦の時期誤認 ☐ 五・一五事件の時代誤認	☐
問 12	実戦（短期間の推移整序）	○ / ×	☐ 下関条約と三国干渉の順序逆転 ☐ ポーツマス条約と韓国併合の順序逆転	☐